

有機ほ場のクログワイ対策を検討しています

水稲有機ほ場の難防除雑草であるクログワイに対して、チゼルプラウ耕の抑草効果試験を2012年秋から開始しました。

水稲の有機栽培で、クログワイ※に対する抑草法としては、冬期に塊茎を低温や乾燥にさらして死滅させる方法が有効とされています。中でも、チゼルプラウ耕の効果が高いとされています。チゼルプラウ耕は、チゼル（25～30cm間隔で配置された爪）で作土をひっかくように耕起し、後部のローラで砕土します（写真3）。このため、土塊の間隙が大きく、通気性が良いため、ロータリ耕や無耕起に比べて土壌の乾燥が早いとされています。

そこで、クログワイの発生が多いほ場において、2012年秋にチゼルプラウ耕を実施し（写真4）、2013年の水稲作でクログワイに対する抑草効果を評価することとしています。



写真1 稲の間に発生したクログワイ



写真2 クログワイの塊茎

※ クログワイ（写真1）は、塊茎（写真2）から発生する多年生の水田雑草です。水稲の栽培期間を通じて発生が見られ、また、親株から地下茎を伸ばし、分株をつくって増えます。塊茎の寿命は5年程度と他の多年生雑草より長いものの、低温や乾燥に弱いとされています。



写真3 チゼルプラウの爪（左）とローラ（右）



写真4 チゼルプラウによる耕起

問い合わせ先：栽培研究部 作物グループ（安達康弘、高橋眞二）

TEL 0853-22-6946

E_mail:nougi@pref.shimane.lg.jp

水稻の有機栽培では、機械除草が主要な除草技術ですが、クログワイは発生期間が長い
ため、機械除草が終わった後に発生したり、分株を形成します。また、抑草技術と
して2回代かきや深水管理などがありますが、クログワイに対してほとんど効果があ
りません。田畑輪換により塊茎を減少させる方法もありますが、塊茎の寿命が比較的
長いので、塊茎の減少には長期間かかります。